

# Caravan ticket

キャラバン

チケット

written by ru-bi



何となく4137km

ヒツキハイクして

日本縦断

誰も絶賛してません

『 . . . . . 』

自分の中で勝手に話題騒然

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

# epilogue

～旅の終わりまでの物語～



ゆき



VV

「二本の足」で虫の音を聞いて

「二つの目」で砂の空と話をして

「二つの耳」で風の匂いを嗅いで

「一つの頭」で太陽の日差しを見て

「一つのハート」で人の優しさに触れて

13日目の昼

プシューーーツ

車掌『トビラ閉まりませう。ご注意ください。』

ゆ〜き『ついに戻ってきたなあ。。。』

そこはいつもの地元の駅。少し違和感があるけど、戻ってきたのか。

改札を通り抜け、駅前のロータリーへ向かったよ。

車で母親のマヤが迎えにきてくれるコトになっていたから、

そこで待っていたんよね。

やっぱり家族ってありがたいねえと思いながら

10分後にはブーンと車が到着。

ホームシックになりかけていた俺に久々に会ったマヤは優しく一言、、、

マヤ『くさっ』

ブ————ン

約2週間ぶりに実家に到着。

ゆ〜き『ただいまーっ』

マヤ『洗濯物はきちんと出しておきなさいよ！』

久しぶりの我が家。やっぱり落ち着くわー。

屋根があるってコトにこんなに感謝するのは初めての感覚だよ。

もう自分の部屋じゃない様な錯覚におちるね。

『明日はどこで寝てるのか？』

とか

『危険な目にあわないか？』

とか

心配しなくてもいい。ここには安全がある。

ゾノもいない。ちょっと一人でいるのが、寂しい気持ち。

(ホモじゃないよ)

荷物を床に ドサッ と置いて、ベッドにゴローンと寝っ転がってさ。  
真っ白い天井を眺めていると今までの思い出が思い返されるんよ。

「トクさんのトラックは無事に荷運び終わったかなあ」

「前田さんはまだシモネタ言ってるのかな～」

「タカヒロさんカッコ良かったな！」

「アブドゥラさんの神の歌、懐かしいな☆」

「トシさんは例の人と連絡取れたかなあ♪♪」

「やっぱり手紙渡したかったなあ」

...

ホント夢の様な時間だったよ。

色んな人に出会って、聞いたコトない話いっぱい聞いて。

経験したコトないやばいピンチも体験してさ。

くそうまい飯を食ったり。たくさんの優しさを受けてさ。

ヒッチハイクという環境がさらに感慨深いものにしてくれた。

ソノも同じ様なコト考えてるんかなー。

出会った全員と大宴会やりたいなー、

絶対楽しいだろうなあとか考えてさ。

皆に書いてもらったメッセージや自分で書いた日記を

ずっと眺めていたよ。

「この旅で自分のヤリタイコトは見つかった??」

答えはNo。具体的なヤリタイコトは見つからなかった。

しかも手紙も結局渡せなかったし、京都から新幹線で帰っちゃったし。

まあ新幹線の件はここだけの話、ネタを明かすと

病弱な俺の体調が悪かったのと

お互いのバイトもあって、けっこ一時間的にもきつかったんだよね。

それでも振り返ってみれば

「旅という環境の中、多くの人と話しながら、自分と向き合う時間」

それはかけがえないものでさ。言葉にするのが難しいな。

とにかく「自分だってやれば出来る」と「誰かの役に立ちたい」と自然に思う様になったよ。

だから、まずは電車でおばあちゃんに席を譲るコトから始めよう♪♪  
優しさの連鎖を少しでも生み出すんだっ♪♪

その後、もうボロボロになっていた服とか寝袋とかを整理して、  
するコト無くなったから、近くのコンビニに全  
然読んでなかったジャンプを読みに行くコトに。

ゆ～き『行ってきま——っす♪♪』

まだセミの鳴き声が聞こえてくる。夕方でもやっぱまだ少し暑いな。  
サンダルで家の近所のローサンまで行って、ジャンプを手にする。  
あーコンビニ涼しい。大好きなone piece を読みながらも、  
冒険っていいよなあとか思ってさ。

全然内容が頭に入ってこなくて。寝ても冷めても  
ヒッチハイクの思い出のコト考えちゃって。



ゆ〜き『ああ———、最高の旅だったなあ♪♪』

ジャンプを棚に戻して、家に戻ろうとする。  
コンビニから出ると目の前に道路が広がる。

ブ————ン

「この道路でただ親指を挙げるだけで、あんな旅が待っていたのか」

胸の中が ドクンドクン と少しずつアツくなっていくのが分かる。  
約2週間という短い時間の中で自分自身の考え方が  
ここまで変わるなんて思わなかった。

「人との出会いが人生を変える」

とか聞くけど、まさにその通り。

「日本人」なんて冷たくて、素っ気無くて、自己主張無くて  
俺はどちらかと言ったら嫌いだったよ。  
でもこの旅を通じて、優しくて、あったかくて、面白くて。。。  
日本にいるコトを初めて好きになれたと思う。

ホントはただ自分が知らなくて、  
何となくイメージしていただけなんだと思う。  
自分の六感をフルに活用して、  
ブルブルっと感じたものには目いっぱい感動したり、  
九州の川に全裸で飛び込んだり、  
鳥取砂丘を猛ダッシュで駆け巡ったり、  
その日会った人とラーメン食ったり、

それは

「二本の足」で虫の音を聞いて

「二つの目」で砂の空と話をして

「二つの耳」で風の匂いを嗅いで

「一つの頭」で太陽の日差しを見て

「一つのハート」で人の優しさに触れて。。。

全てに感謝。

ちょうど一台の車が近くの交差点をウィンカーを出して曲がる。

その車は見えなくなっていく。

オレンジ色のウィンカーが夜の暗闇に消えていく。

「旅は終わった」

ただ色んなものを得るコトが出来たと思う。

もしかしたら社会に出るトキには役に立たないものかもしれない。

それでもいい。

この経験を知らずに生きるよりかは絶対いい。

今まで汚く見えた空が少し広く見える。

ゾノと俺のわんぱくさがいっぱい詰まった

ちょっとした冒険『free&crime』は静かに幕を下ろした。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

その頃の俺はこのヒッチハイクの経験が  
自分の人生にどう影響を与えるかなんて知らなかった。  
また京都⇄東京の部分だけヒッチハイクしなかったのも、  
偶然にも後々意味を帯びてくるコトも。。

ゆ〜き『また、こんな冒険に出たいなあ。。。』

ミ————ン、ミンミン♪♪

そして「大学2年の夏」が過ぎていく。

*this story continues*

*&*

*go to next stage*

この旅でお世話になった全ての方々へ感謝します  
本当にありがとうございました